

2015 年 (平成 27 年)

新春号

[第 24 号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階
- 0032 TEL : 03 (5566) 1595
FAX : 03 (5566) 1597

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association
Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

写真
東京夜景



「桃栗三年 柿八年…」

理事長 飯田 歳樹

東構協、東構協協力会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は今までにないようなビックチャンスがやってきました。

政権の交代によるアベノミクス効果が、予想通りに推移しなかった昨年、理由なき解散総選挙という結末を迎えました。

しかしながら、消費増税の先送りや経済対策の実施を含めアベノミクスに期待する声が高く、今後の景気下振れ懸念はかなり払拭された感があります。今回の選挙でも自公の圧倒的な勝利となりました。

われわれを取り巻く鉄骨業界においても、東京オリンピック、首都圏の再

開発、リニア新幹線のアクセス等々計画は、生産を大きく上回る環境となり、この状態が数年続くと考えられます。

一方、足元を見ると増税後の景気の停滞感から民間の設備投資の動きが今ひとつ鈍いのが現状ですが、昨年12月の日銀短観の見通しでは、景気は足踏み状態だが、設備投資意欲の動きも見られるとのこと。このままの計画で鉄骨需要が見込まれば、全国のファブリーケーターは繁忙期を迎えることとなります。われわれ生産者側においては、品質管理、工程管理などの課題もあり、採算性は大幅な伸びにはならないのが現状です。また、労働者不足などから人材確保がままなりません。

品質確保には人材育成が伴います。

今、需要が見込まれる時期に各ファブリーケーターは人材確保に努め教育・指導が必要と考えます。「信用は一日にしてならず」と言われますが、人材についても教育してもすぐには生産性に寄与することは出来ません。「桃栗三年柿八年…」と言われるように、何事も成就するには時間がかかるということわざのとおりです。すぐに結果を待たず、地道な努力が大切であるとの教訓を生かし、頑張っていくしかありません。「桃栗三年柿八年…」のあとには、諸説あるようですが一般的に「ユズの馬鹿めは18年」「リンゴにここ25年」と続くようですが、企業はここまでは待てませんよね。

いずれにしても、しばらくは忙しい毎日が続くでしょう。東構協の会員の皆様は身体だけは大事にして、安全第一で迫りくる繁忙期を乗り切り、今までのお仕着せの悪い指値を断ち切り、次世代につながる経営を目指してもらいたいと願います。

(飯田製作所社長)

組合理事役員

年頭のあいさつ

「引き出し」



理事・相談役
共済事業委員長

池田 英敏

今年で72歳を迎える。昭和40年には、このファブ業界に携わって50年余りとなるが、その道程の中で数多くの知識を学び、艱難辛苦（かんなんしんく）をなんとか乗り越えてこられたことが、走馬燈のごとく蘇ってくる。

もちろん楽しいこともあったが、学んできたことから得た格言や故事を通じ、書き綴った事柄を少しだけ開けてみたい。このことが若い方に少しでも役に立てば幸いである。

まず最初に自分の目標を持つことが一番大事になると思う。それも目標を高く掲げることに意味がある。故事のなかで次のようなことが記してあった。「吞舟の魚、支流を泳がず、鴻鵠は高く飛んで汚池に集らず」——。舟を呑み込んでしまう大魚は小さな支流に泳がないし、鴻のような大きな鳥は

高く飛んで水たまりなどに降りることはない。

志の大きい者は小人の批判や抵抗に怯むことなく大志を挑み続けるものである。長い人生を先を争って、格好よく駆け抜ける必要はないし、急ぐ必要もない。日々コツコツと天から与えられた仕事に励み、自己修業を限りなく積みつつ、降りかかる困難を克服して前に進む強い意志を持ち続けていれば自分の打ちたてた目標に必ず到達するのである。それはマラソンランナーのようなものであり、飛び出さず、遅れず、最後までゴールを目指すことにある。

その目標に到達する過程に三つの目を持つことが大事とされている。

一つ目は「鳥の目」を持つ。これは大局観を持ち、基本方向を定める。二つ目は「虫の目」を持つこと。複眼思考で現実を見据える。三つ目は「魚の目」を持つこと。これは時代の流れを肌で感じ取る。このような目を養うことにより、自らの感性を育て五感を曇らせない的確な判断が宿っていく。

唯我独尊ではなく、人の心を思いやる姿勢と感謝の気持ちが大事となる。そうすれば「桃季もの言わざれども、下自ら蹊を成す」の例えのように徳のある人には自然と人が集まってくるのである。

また、「努力」の二文字についても

次のような格言がある。「涙定量、汗無限」——。流す涙には限度があるが、流す汗は一生のうちいくら流してもよい。これは努力を怠るなどの示唆、また「力耕不吾欺」、力を込めて耕せば耕された田畑は耕した人を絶対に欺かない。努力はうそをつかないとの教訓である。

紙面が足りないため、少しだけ披露させていただいたが、今後も書き綴った事柄を紐解くことが多々あり、自分の戒めとして反省している。引き出しの一部を書き綴りました。

(池田鉄工会長)

俳句を作しましょう



副理事長
総務・広報委員長

松田 清明

2年ほど前から俳句の会に入りました。所属するロータリークラブの会員に、この道に秀でた人がいて、その方を師匠に、毎月1回の例会をもっています。天ぷら屋や蕎麦屋などでお酒を飲みながら、おのおのが前もって投句した句を、褒めたりけなしたり喧々

衆議院の高木議員らと懇談

「Tokyo Bay3」をテーマに

5月19日、東京都千代田区の衆議院会館を訪れ、東京湾岸1都2県鉄構組合同戦略会議（略称＝Tokyo Bay3）の取り組みについて衆議院の高木陽介議員らと懇談した。

衆議院会館を訪れたのは当組合の飯田理事長のほか、吉岡晋吾副理事長（吉岡工業専務）、加藤哲夫事務局長の3名。衆議院の高木議員、高木美智代議

員、伊藤渉議員らがこれに応じた。

飯田理事長は、首都圏直下型地震など大規模災害の発生時における地元ファブの果たす役割やTokyo Bay3が作業を進めている「応急復旧支援に係るアンケート」などを説明。そのうえで、「地元ファブが後継者育成や設備の更新など安定かつ継続的に経営できる環境整備のためにも地元企業の優先発注、育成が重要」と理解を求めた。

これに対し、高木議員は国、東京都など公共工事の地元起用や防災協定な

どの実態調査とともに、復旧支援アンケートの調査結果を求めるなど積極的な姿勢を示した。



謂々、時の経つのも忘れて騒いでいます。年に1回は名所旧跡に吟行もします。

わずか十七文字(音)でしかないのですが、作る時は言葉との格闘です。俳句にはいくつかの決めごとがあり、うっかり、または知らずにその禁を破ってしまうことがあるのです。想がまとまったら季節のことは、決めごとの季重なりがないか歳時記で調べます。切れ字が何度も使っていないか、その句で言いたいことが十分理解できるかなど、推敲をかさねます。すんなり一句できる時もありますが、たいていは悪戦苦闘の連続です。

俳句は頭(脳)の体操であるという人もいますが、まさにその通りだと思います。古今の名句と言われているものは、どれも素晴らしいリズムと含蓄を持っています。そして俳句はお金がかかりません。手帳と鉛筆があれば今日からでもできます、と師匠にもすすめられました。仲間との楽しいひと時、そのひと、そのひとの人間性、思考回路、出来事など、ある程度理解できるような気がします。これからも言葉との格闘を続けていきたいと思っています。(松田鋼業社長)

需要の盛り上がりの中で



副理事長
運営委員長

武田 忠義

今年の建築鉄骨業界は、全国的な流通倉庫や店舗のほか、官庁案件など物件規模に関係なく出件が相次ぎ、昨年を引き続き、好調な展開をみせるものと予想される。

ただ、この数年間の建設業界全体の動向から鮮明になってきた課題がある。東日本大震災復興も忘れてはならない重要施策だが、急速な需要の盛り上がりに対して供給がまったく追いついていないことである。

建設就労人口の減少もあるが、適材適所に肝心の人材が不在であることがさらに拍車をかけている。中長期的には少子化による労働人口減少や人件費、資・機材費の高騰による建設費上昇の問題が壁として立ち塞がる可能性もある。

鉄骨業界とて同じである。需要は現

在、500万~550万トで推移しているが、各社ともフル稼働であるということは、供給と需要が均衡状態にあることを意味する。

東京都内だけをみても八重洲、日本橋、日比谷、渋谷、六本木など大型再開発案件が目白押しである。東京五輪やリニア新幹線整備などの目玉プロジェクトがそこに加わるとどうなるか、結果は誰の目にも見えている。

物理的に供給能力が限られていることから事業の仕分けが始まっていく。今年度当初の需要予測と実需、各社の稼働率や手持ち量などから判断して、実はもうすでにそれが始まっているのではないだろうか。工程のズレ込みが取り沙汰されているが、需要のズレ込みも同時に生じている可能性がある。

業界もそうだが、建設業界全体がこうした共通認識のもとに、広く社会に理解を求めて問題点のネック解消を図る必要がある。

物事の大半は理想通りには進むことが少なく、まして将来のことは誰にも分からない。しかし、知恵を働かせて今できる最善の方法を選択、そして実行すべきである。

(叶産業会長)

中・西合同、東で地区会

中地区(地区長=金谷義昭・金谷鉄工所社長)と西地区(地区長=坂爪幸男・坂爪建鉄工業社長)は12月1日、府中市の府中グリーンプラザ会議室で両地区会員及び協力会員約20名を集め、合同地区会を開催した。

今回の合同地区会は研修を兼ねて行われ、同組合の加藤哲夫事務局長が、不具合事例などを解説。「性能評価でも社内教育の重要性がチェックポイントとなっている。こうした事例を活用して、より効率的に指導してほしい」と述べた。また、大日本塗料の根本隆史主任が、同社の水性錆び止め塗料「水

性グリーンボーセイ速乾」について、これまでに実施した試験結果をもとに性能や溶剤系との比較、施工の際の留意点、JIS取得などを説明した。根本主任は、「素地調整や塗装の際の環境、条件などが適切な塗膜形成に適用」と話した。東京都では環境負荷に対する意識が高いことから採用実績も多く、参加者から活発な質問が提出された。

このほか、共済事業や神奈川と千葉の鉄構組合で進めている災害支援協定について紹介し、理解を求めた。

また、翌2日には江東区の亀戸文化センターで東地区会(地区長=前田茂昭・前田製作所社長)が地区会員と賛

助会員約20名を集めて開かれた。

加藤事務局長による不具合事例解説、大日本塗料の「水性グリーンボーセイ速乾」紹介などの研修行事のほか、東京bay3の災害支援協定など組合事業を報告するなど中・西地区とほぼ同様の内容で行われた。



「ありがとう」



副理事長
教育・技術委員長
中川内 伸吉

今回、執筆するテーマがなかなか見つからなかったのですが、以前から思っていたことを書いてみます。

以前、テレビ番組でペットボトルの水に「ありがとう」と何回も声をかけると、その水が美味しくなると紹介されていました。実際にキャスターの方が、その水を飲むと「普通の蒸留水よりも甘みがあって美味しかった」ということでした。

ウィキペディアによると、ありがとうの語源は、「有り難し（ありがたし）」の連用形「有り難く」がウ音便化したものである。「有り難し」とは、本来「有ること」が「難い（かたい）」、すなわち「滅多にない」や「珍しくて貴重だ」という意味でした。また、『枕草子』の「ありがたきもの」では、「この世にあるのが難しい」という意味、つまり「過ぎにくい」といった意味

でも用いられています。

私は、上記の文書よりも「ありがとう」という言葉に対してもっと神秘的な感情を持っています。

人を納得させる、人を安心させる、人を感動させる……、実際、この一言でどれだけの人を幸せに出来るか思っただけでもワクワクしてきます。

家庭内でも子供が小さいときから、「ありがとう」の言葉を習慣つけています。仕事でも「うん・はい・サンキュー」ではなく、相手の心に響ように「ありがとう」と。(中川鉄工所社長)

野球少年



理事
Mグレード部長
谷村 忠行

昨年の10月のとある日曜日、近所を散歩していたときのことでした。少年野球場で子供たちの野球の大会が行われていました。私の子供の頃は、日常的な遊びの一つで、身近なスポーツ

でしたが、最近では野球をする子供たちを見かけなくなったと感じながら足をとめて見ていました。

しばらく見ていると、何となく違和感を抱きました。数年前からストライクカウントとボールカウントのコールの順番を、ボールカウントを先に、ストライクカウントを後にコールするアメリカ式に変更になったことはプロ野球を見て知っていましたが、アウトのコール方法も変わっていました。

バッターが内野ゴロでアウトになった時、一塁審判はバッターランナーに指差して『ヒーズアウト』とコールしていました。また、フライを捕球してアウトになった場面では『キャッチアウト』とコールしていました。初めて聞くアウトコールのため、何とコールしているか聞き取れず、近くにいた大会関係者らしき方に聞いて知ることができました。さらにボークの際は『ザッツボーク』とコールすることも教えてくれました。これらはメジャーリーグの流れを取り入れているということでしたが、来年からは次のインニング準備のためのベンチ前の投球練習も禁止されるようで、これもメジャーリーグの影響とのことでした。

野球だけではありませんが、身の回

管理技術者試験準備講習会

1級 145名、2級 76名が受講
講師は羽石・大塚氏が担当

9月13日、東京都千代田区の連合会館で鉄骨製作管理技術者試験準備講習会を開催した。

当日は鉄骨製作管理技術者1級向けに145名、2級向けに76名が受講した。

講師は、鉄骨製作管理技術者1級向けが羽石良一氏（さくら設計事務所）、2級向けは大塚英郎氏（大林組生産技術部専門技術課担当課長）が担当し、テキストとOHPを使用しながら建築

法規一般、鉄骨構造、品質管理、鉄骨加工、安全管理など試験問題の概要や要点などを解説、模擬試験も実施した。

本試験は、全国鐵構工業協会と鉄骨

建設業協会の共同実施で10月25日に全国6会場で開催される。

同試験は、両団体の資格制度事業として鉄骨製作管理技術者登録機構の運営で実施され、11月7日開催の審査委員会で可否を決定し、11

月下旬から12月上旬までに合格者を発表、登録申請手続きを経て4月1日付で資格証（有効期限5年間）が発行される予定となっている。



りの生活には確実に欧米化が知らず知らずの間に浸透してきています。決して欧米化が悪いわけではありませんが、日本独自の文化が少しずつ失われている気がします。

2020年には東京オリンピックが行われます。各地でオリンピックの準備が行われますが、国際社会に適應するサービスのなかに粹な日本文化のエッセンスを加えて素晴らしいオリンピックになることを期待しています。

(谷村製作所会長)

新年にあたって



理事

角鹿 茂

今年は仕事も多く、業界全体が忙しいと聞いています。

しかし、仕事をこなすだけで、振り返る余裕のなかった一昨年前と違い、昨年は冷静な判断をしながら仕事をすることができるようになり、業界全体の雰囲気も徐々に良くなってきていると思います。

わが社も総合、鉄骨加工ともにまと

まった仕事量を受注できたため、繁忙期を迎えました。鉄骨加工ではずいぶん仲間に助けをもらい、感謝しています。こうした、環境の改善で会社の業績も良くなり、先行きに若干不透明感があるものの全体的には明るくなりそうです。

長らく続いた厳しい状況からようやく良い時代になりつつありますので、これを契機に世代交代をしようと考え、段取りを始めています。

私自身、近頃は耳も目もだいぶ弱ってきていることもありますが、最近では会社や工場を3人の子供が上手く回してくれています。「そろそろ引退したら」と、子供たちの勧めもあり、一昨年前から、世代交代の話を進めてきました。幸い、専務もやる気になっており、頼もしく感じるとともに安心していきます。

これまで続けてきた仕事の第一線から外れることは少しさみしくもありますが、ゴルフもやめ、趣味らしい趣味といえば皆さんとお酒を飲むことと仕事ぐらいになってしまいました。

今後は、体を動かすことや物をいじることが好きで、なにより、仕事をしないと呆けるとお思いますので、工場内の壊れた設備や機材の修理や掃除などをしながら、会社をサポートしていきたいと考えています。

(角鹿鉄工社長)

新しい橋



理事

森 明

昨年、東京湾洋上で覇にかすんで、見たことも心当たりもない、巨大なアーチの構造体に遭遇して、ビックリして目を凝らしたことがありました。それから一カ月もしないある日、隅田川の勝鬨橋を渡るバスの車窓に、あの時見た構造体を見て、初めてこの次第に納得すると同時に変わりゆく変遷に感銘いたしました。

虎ノ門から新橋、汐留、築地を経て、発展を続ける東京湾岸地帯への架け橋であり、来年開場を目指す新築地市場の最短ルートとなり、5年後の東京オリンピックに備える第一歩を踏み出した時代の象徴の如くに映りました。

13年後の完成を目指すリニア新幹線の着工とは、ほど遠い規模とはいえ、古来、橋の建造は文明文化の象徴であり、江戸時代、日本橋は東海道五十三次の起点、明治維新の銀座通りの起点となった新しい橋「新橋」が、鉄道発祥の起点駅である駅名と地名の由縁でもありました。

東構協・協力会

地区会などで「PR活動を」

5月27日、東京都千代田区の「アルカディア市ヶ谷」で平成26年度総会を開催した。

総会では全ての議案を滞りなく可決。今年度も引き続き、組合理事会や各地区会でPR活動を展開することを活動のメインにした。

また、同会相談役に東構協の共済事業委員長に新たに就任した武田忠義氏

(叶産業相談役)が選ばれた。

石塚勲会長(富士見興業社長)は来年の役員改選と会の実情に即した会則変更などの検討を説明したほか、事業活動について「会議や懇親会を開き、積極的に意見を聞きたい。また、会員各社も組合理事会や各地区

会を利用して、ぜひPRしてほしい」と語った。



今、この東京の空の下で、未来を見つめ、話れる目標に日々接している実感があります。

何時の時代も新しい試みに触れることは、自分自身が求める目標を持つことの励みになります。

齢をまた一つ重ねても、何とか13年先のリニアに乗りたいと思うことにしています。

東構協の組合活動は後進に期待して、益々の隆盛を願うことになりました。構成員の仲間入り以来、30年近くになり、加入当初、130社の隆盛を誇る新年会の席上で理事長がワインのゆとりある話をされたことを思い出します。

時代や経済の背景に習い、50社台を維持する現体制に何が必要か、その道筋に、「新しい橋」を架けることが出来る組合運営を皆様とともに励みたく思っております。

(日本鉄構建設工業会長)

釣り紀行



理事

柳本 幸治

今年、私は71歳になる。思えば物心がついた頃から家の前の小川で魚釣りをしていた。魚との付き合いは長く60数年を数え、いまだに魚を追いまわしている。

昨年晩秋、通い慣れた千葉県木更津の海へメジナ(関西名はグレ)釣りに行った。風もなく晴れていて、釣り日和である。早朝から釣人が多く、空いている場所に入り、隣で釣りをさせて頂きますと声をかけたら笑顔で「頑張ってください」と返事があった。さっそく、準備に取りかかる。

その間にも数人の方が30センチ前後のメジナを釣り上げている。期待に私の心も踊る。一投目を投げるとすぐにウキが沈み込み、すかさず合わせる。竿は満月のように曲がり、力強い引き込みが伝わってくる。魚を格闘のすえに釣り上げる。35センチのメジナだった。最初からついているなど心のなかで思う。

その後も約1時間入れ食い状態が続き、13匹釣り上げたところで潮の動きがとまり、食いもとまった。竿をあげて休憩する。ふたたび潮が動きだすのを待って再開する。また、入れ食いが続き、ついに餌切れとなる。10時30分で納竿とした。

釣果はメジナ25~38センチを25匹。大きめのクーラーボックスがいっぱいになり、「今日も最高の釣りができた、あー満足、満足」と思う。帰りの車中で刺身、干物、煮物、味噌付け、鍋物など調理の方法を考えながら帰宅した。(富士工業専務)

東構協・青年経営者委員会

(幹事長=吉岡晋吾・吉岡工業専務)
(会員数20社)

●定例会を開催

10月30日、東京都中央区の組合会議室で定例会を開き、各社の山積みや受注単価の現状について情報交換した。

引き続き各社とも稼働率は80~100%の高水準で推移。人手不足などで工期遅延となるケースが増え、「先々の山積み穴が空くこともしばしばだが、自ずと埋まってくる。需要が供給を上回っており、焦る必要はない」という。

また、依然、繁忙感が強いなか、鉄骨市況は鉄骨需給のタイト感を背景に緩やかながら改善傾向にある。Mグレードファブでは「100トンの前後のコラム-H物件は23~25万円で成約

できている」とし、「上手に選別すれば、さらにいい価格の物件もある」もよう。「来年は今年以上に仕事量が出てくると見込まれる」ため、今後も鉄骨市況は上げ基調で推移するとみられる。



●通常総会

7月18日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで通常総会を開催した。

吉岡幹事長はあいさつで、「旺盛な需要が見込まれるなか、各社とも稼働率は高水準で、非常に忙しい状況が続い

ているものと思う。もはや焦って仕事を確保しなくてもいい環境にある。こういったときは早くから先々の山積み穴を埋めてしまっては損だ。選別受注を心がけ、ギリギリまで我慢して稼働率を80%程度にとどめておく方が良い。急だがそれなりに割のいい仕事が舞い込んできても対応できるようにしておき、採算改善につなげてもらいたい」と語った。

当日はすべての議案を全会一致で承認。このうち事業計画には新会員の加入促進、他県との交流会実施などが盛り込まれている。



NDI-UT 資格の認証制度が改定 新規試験は今年秋期から運用開始

日本非破壊検査協会が認証する UT 資格 (JSNDI-UT 資格 レベル 1~3) は、JIS Z 2305:2013) に基づき認証制度が改定され、新規試験について今年秋期から、再認証試験と再認証再試験 (10 年ごと) は 17 年春期から運用される。

今回の主な改定内容 (昨年 9 月末現在) は、新規試験の再試験 (レベル 1、2) で、これまで「筆記試験 (一般試験、専門試験) 合格のみ実技試験の受験可」を「筆記試験 (一般試験、専門試験) 及び実技試験を個々に合否判定。不合格となった試験のみ再試験」に改める方向に検討中にある。

また、実技試験の合格点 (レベル 1、2) は「80%以上」を「70%以上」、再試験の受験回数が「1 回」から「2 回まで」、実技試験体数 (レベル 1、2) は「2 体 (垂直、斜角)」を「3 体 (垂直、斜角、検討中) となる。

一方、再認証試験の内容 (レベル 1、2) は、「筆記試験」を「実技試験 (3 体)」に改定を検討中にある。再認証試験の合格点 (レベル 1、2) は「80%以上」を「70%以上」に、受験回数 (レベル 1、2) は「4 回まで (有効期間の 2 年前から有効期限までの 4 期に 4

回)」を「3 回まで (同一期に 3 回)」に、試験開催地は「全国主要都市 10 会場」を「レベル 1 で 4 会場、レベル 2 で 6 会場を予定」に改定、再試験会場については検討中としている。

受験料金 (消費税別) については、新規・再認証とも「受験料 1 万 2 7 5 7 円、認証申請料 1 万円、更新料 5 0 0 0 円」を「受験料 1 万 7 0 0 0 円、認証申請料 1 万 3 0 0 0 円、更新料 7 0 0 0 円」に改定される。

なお、詳細については、日本非破壊検査協会のホームページ (<http://www.jsndi.jp/>) 内の「資格試験」の項目で紹介している。

【経緯】 非破壊破壊試験技術者の技術レベルの均一化に関しては、日本非破壊検査協会の非破壊検査技量認定規程 (NDIS 0601) によって技術者の技量認定試験を実施、技術者の技量認定を行ってきた。

一方、世界各国で実施されている非破壊試験技術者に対する技量認定制度を国際規格 (ISO 9712) をもとに国際整合化をしていく動きがあり、同協会でも日本非破壊検査規格 (N

DIS J001; ISO 9712) に基づいた認証制度を 1998 年から実施していたが、JIS Z 2305 の制定に伴い、認定制度 (NDIS 0601)、認証制度 (NIDS J001) を JIS Z 2305 に基づく認証制度へ融合一元化して 2003 年度に実施してきた。

2013 年 6 月に改正され、今回、2015 年秋期試験から JIS Z 2305:2001 から JIS Z 2305:2013 に基づく認証制度に順次切り替わることになる。

■全構協が「建築鉄骨超音波検査技術者資格」の取得を呼びかけ■

一方、全国鐵構工業協会では、この機会に「建築鉄骨超音波検査技術者資格」の取得を呼びかけている。2015 年度の新規受験申請は今年 5 月上旬~6 月上旬、更新試験申請は 8 月上旬~9 月上旬を予定している。

なお、建築鉄骨超音波検査技術者資格制度では、NDI-UT 資格取得が新規受験者の条件となっているが、建築鉄骨超音波検査技術者資格取得後の更新・継続時には NDI-UT 資格取得を条件としていない。

NDI-UT 資格の現行制度の受験日程 (新制度は網がけ部分)

		2015年度		2016年度		2017年度	
		春期	秋期	春期	秋期	春期	秋期
新規	受験申請	1/下~2/上					
	筆記試験	3/下					
	実技試験	5/上~6/下					
再認証	受験申請	1/下~2/上	7/下~8/上	2015年度	2015年度		
	再認証試験	3/下	9月下	春期と同じ	秋期と同じ		
認証日		2015. 10. 1	2016. 4. 1	2016. 10. 1	2017. 4. 1	2017. 10. 1	2018. 4. 1

新 制 度
(日程・会場は未定)

理事役員会報告

◆ 1月理事会 ◆

□ 1月15日、於・アルカディア市ヶ谷□

理事会では「社会保険未加入問題に伴う統一標準見積書」の1月実施に関して現状と課題について意見を交換した。東構協としては一昨年12月12月に統一標準見積書の説明会を行い、1月からの運用実施を決めているが、ファブ各社の協力会社の保険加入率や客先となるゼネコンの理解浸透などに相当のバラツキがあることが判明。工事現場の立入制限や起用選定などの実態と運用に関する対応について活発に意見を交換した。

理事会終了後、同所で組合員、来賓、協力会関係者ら計60名を集めて新年賀詞交歓会が開催された。

◆ 2月理事会 ◆

□ 2月20日、於・組合会議室□

飯田理事長が発起人となり、昨年9月に設立した東京湾岸3都県一鉄構組合合同戦略会議（略称＝Tokyo Bay3）に関して、地元自治体と防災協定を締結している組合員の井上鉄工（本社・三鷹市）の井上景悟社長を招き、月内に事務局会議を開催することを報告した。

具体的な内容を把握し、自治体や千葉県鉄骨工業会、神奈川県鉄構業協同組合の東京湾沿いの1都2県との連携の枠組みのなかで災害時の協力体制などを目指していく。また、地元ファブによる公共事業の優先起用を盛り込んだ陳情文作成など具体的な事業計画や活動方針を協議するために千葉、神奈川両県の実務者を交えた会議を3月8日に神奈川県箱根町で開く予定にしている。

また、全国鐵構工業協会構成員の役員表彰者として、柳本幸治理事（富士工業専務）の推薦を決めた。

◆ 3月理事会 ◆

□ 3月20日、於・組合会議室□

理事会では、今年度収支見込み及び来年度事業予算について協議。教育・技術委員会や東構塾などが中心となって、来年度事業計画のなかに組合講習会修了書が発行できる行事内容の検討を進めることになった。

また、Tokyo Bay3の方針作成会議が8日に神奈川県足柄下郡の箱根強羅「桐谷箱根荘」で開催されたことを報告。組合員の資材・機材・資格者など災害時の復旧・復興支援体制を把握するための防災アンケートの実施を承認した。



◆ 4月理事会 ◆

□ 4月23日、於・組合会議室□

理事会では総会議案書案や任期満了に伴う役員候補などを取り決めた。また、総会終了後には研修行事の一環として、積算ソフトの説明会（講師・カルテック）を併催し、受講者には修了書を発行することにした。

また、Tokyo Bay3の「大規模災害発生時における応急復旧支援に係るアンケート調査」の素案を審議、承認した。内容的に大規模地震発生時の復旧・復興支援に関する各社の資材・機材・資格者など体制や対応などを把握するための調査となっている。

さらに、5月18日に神奈川県箱根で行う都内鉄構3団体との研修旅行のほか、6月27日に長野県の上山田温泉で開催する全国Mグレード部会主催の長野県鉄構事業協同組合Mグレー

ド部会との交流会の参加者を決定した。

◆ 5月理事会 ◆

□ 5月27日、於・アルカディア市ヶ谷□

理事会では当日開催する総会議案を確認したほか、Tokyo Bay3での取り組みを説明した。また、幸栄工業（佐藤則雄社長、足立区）と石川鉄工所（石川高広社長、福生市）の2社の入会を承認した。

また、Tokyo Bay3での取り組みでは、1都2県で実施する「大規模災害時における応急復旧支援にかかわるアンケート調査」について、飯田理事長は回答の徹底を呼びかけた。

そのほか、これまでの事業報告や6月に長野県で開催する全国Mグレード部会連絡協議会の交流会など、今後の事業予定を確認した。

◆ 6月理事会 ◆

□ 6月26日、於・組合会議室□

理事会では委員会など担当役員の選任を審議、総務・広報委員会は松田清明副理事長（松田鋼業社長）、運営委員会は武田忠義副理事長（叶産業相談役）、共済事業委員会は池田英敏相談役（池田鉄工会長）、教育・技術委員会は中川内伸吉副理事長（中川鉄工所社長）を選任した。さらにMグレード部会は谷村忠行理事（谷村製作所会長）、R・Jグレード部会は小室節夫理事（小室鉄建社長）、Hグレード部会は武田副理事長、青年経営者委員会は吉岡晋吾副理事長（吉岡工業専務）、東構塾は中川内副理事長、Tokyo Bay3は吉岡副理事長、東地区会に前田茂昭理事（前田製作所社長）、そして中西地区会は金谷義昭理事（金谷鉄工所社長）の理事役員を選任した。

Tokyo Bay3の「大規模災害発生時における応急復旧支援に係るアンケート調査」の回収状況を報告。東京が53社中35社、神奈川は44社全社、千葉が42社中18社の回答となった。

◆ 7月理事会 ◆

□ 7月 31日、於・組合会議室□

審議事項で組合新規加入を申請中の(株)那須ストラクチャー工業(本社工場・千葉県八千代市、紀乃元社長)と(株)ヤマトミ(工場・埼玉県所沢市、Rグレード、小山えい社長)の2社の入会を承認した。

また、全構協、関東支部、各委員会、各グレード部会、青年経営者委員会、東構塾、Tokyo Bay3などの活動状況を報告。このうち全国R・Jグレード部会連絡会の幹事会に組合からR・Jグレード部会長の小室節夫理事(小室鉄建社長)と杉本豊理事(一本木鉄工社長)の2名が参加する。さらに共済事業委員会関連で、委員長の池田英敏理事相談役と飯田理事長が、協力会メンバーと懇談し、入会メリットを引き出せる体制づくりをしていく。

◆ 9月理事会 ◆

□ 9月 25日、於・組合会議室□

理事会では活動状況を報告。大阪で9月26日に開催する全国R・Jグレード部会連絡会の幹事会の中で、全国Mグレード部会連絡協議会で実施している「代替エンドタブ自主技能検定」を紹介することが盛り込まれた。

また、Tokyo Bay3では、事前に3県で行ったアンケートの集計結果を確認。また、大規模災害時等における相互支援の協定書の原案を、今回の理事会で決定するとした。

関連して、同協定の周知徹底と共済

事業の推進を目的に、各地区会の年内開催を決めた。開催にあたり、地区長が組合企業を直接訪問し、参加を要請することや技術講習会を併催するなどの意見が提出、継続審議とした。

◆ 10月理事会 ◆

□ 10月 22日、於・組合会議室□

組合HPリニューアルについて審議。各企業のPR内容等の見直しのほか、固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験の概要掲載(全国Mグレード部会連絡協議会)も合わせて作業を進め、組合員に伝達すべき重要な情報はパスワードで閲覧可能な方法を検討することにした。来年4月からリニューアル版HPの運用を目指す。

また、建設産業専門団体連合会全国大会の参加者を審議、飯田理事長のほか、計6名の参加を決めた。

さらに地区会を開き、Tokyo Bay3と災害緊急支援協定、協力会の組織活用を踏まえた共済委員会活動など組合の活動報告や情報交換を中心に討議することにした。

◆ 11月理事会 ◆

□ 11月 25日、於・組合会議室□

組合ホームページについて最新の役員名簿に更新、固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験実施要領(全国Mグレード部会連絡協議会)も新たに掲載したことを報告した。また、リニューアル版HPの運用を目指していく。

地区会の内容を「鉄骨加工のポイン

ト」、塗料5674、共済事業推進、Tokyo Bay3と災害緊急支援協定、情報交換とした。

さらに、忘年会を開催し、当日は鈴木貴久前副理事長の「ご苦労さん会」も併催。組合の会報「リポート東構協」を来年1月中旬までに発行する。

◆ 12月理事会 ◆

□ 12月 16日、於・組合会議室□

審議事項では、新年賀詞交歓会の進行スケジュールについて協議。来賓・招待者のほか、担当役割を決め、当日はアトラクションとして恒例のアンサンブル演奏も行うことにした。賀詞交歓会前にはMグレード部会、理事会も開催する。

組合活動の活性化、将来展望を踏まえた次期理事体制などを協議する検討会を70歳以上の理事4名と飯田理事長、事務局長を交え2月期理事会前に開催することにした。

組合構成企業で従事する独身の若手作業員に配慮して、異業種組合・団体との女性との交流会を組合主催で開催することを決めた。



平成 26 年度通常総会開く

飯田理事長ほか留任

5月27日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で第28回通常総会を開いた。役員改選で飯田理事長ほか正副理事長が留任を決めた。

また、新理事に小室節夫氏(小室

鉄建社長)を選出した。総会後は東京、神奈川、千葉の鉄構組合で結成した東京湾岸1都2県鉄構組合合同戦略会議の取り組みを説明し、アンケートへの協力を呼びかけた。

引き続き開かれた講演会では、カルテックの積算ツール「newTON Pro」の実演が行われた。



交流・部会事業 を積極的に推進

◆長野県で全国M交流会 —Mグレード部会—

全国Mグレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務）は6月27日、長野県千曲市のホテルで長野県Mグレード部会との交流会を開催した。地元の長野県24社、東京7社、神奈川県7社、千葉県2社の全国M会会員計40社が参集した。交流会は仕事における協力依頼など首都圏ファブと長野県ファブの信頼と協力関係を深める目的で開催されたもの。

交流会では長野県Mグレード部会の一之瀬徳雄会長（一之瀬鉄工所社長）の開催趣旨説明後、同県M会員が自社の加工能力や特徴など自己紹介を行

い、東京や千葉、神奈川が各県の受注状況を説明した。また、実際に東京と長野の会員がJV方式で進めている鉄骨物件の紹介や取引の際の留意点について協議したほか、今後、首都圏ファブが長野に仕事依頼する際の窓口を取り決めた。

翌日は研修の一環として三協産業青木工場（小県郡青木村）と上小地域職業訓練センター（上田市）で実施中の鉄工技能士実技試験を見学した。

◆全国R Jグレード部会連絡会に参加 —三菱重工航空宇宙史料室を訪問—

全国R Jグレード部会連絡会（会長＝松枝建次、松枝興業常務）は4日、技術研修事業の一環で三菱重工の名古屋航空宇宙システム製作所史料室を訪れ、日本の航空機開発の歴史を振り返るとともに、ゼロ戦開発者の堀越二郎

氏ら同社技術者が開発した航空機群を見学した。

同史料室は、戦前から戦後の日本における航空機開発の歴史を振り返る写真や模型、設計図などを展示するほか、ゼロ戦や秋水など第2次世界大戦で活躍した機体やビジネス機として評価の高いMU-2の機体を修理・保全して紹介している。

会員14名が参加し、技術開発史や開発哲学、ゼロ戦の開発コンセプトなどを学んだ。また、枕頭鉾を世界で初めて採用するなど、最新技術を積極的に取り入れていたことを学んだ。



東 構 塾

今治造船の工場を見学 随所に自動溶接機を活用

3月13～15の3日間、今治造船（本社・愛媛県今治市、檜垣幸人社長）の西条工場（愛媛県西条市）を見学した。塾生13名のほか、東構協理事5名も合流し総勢18名が参加。今治造船は、年間90隻以上の船舶を建造し、西条工場は敷地面積が最も大きく、世界屈指の規模を誇る最新鋭工場。厚板の加工、ショットブラスト、印字作業、船の外周部となる溶接などを見学した。



人材テーマに講話 第4期8回目講義

第4期第8回目の講義が6月21日、東京都中央区の組合会議室で行われた。羽石塾長が「ファブ経営と人材」をテーマに講話を行ったほか、来期のカリキュラムを決めるために塾生同士で意見を交換した。

羽石塾長の講話に続き、来期のカリキュラムをどうするかについて検討し、塾生らが意見を交換。人材の確保と育成や、原価管理の仕方に関する講習、異業種の工場見学を要望する声のほか、「5年後、10年後の需要環境の変化に備え、今のうちから協力体制の構築を視野にファブ経営の在り方を根本から見直すべく研究してみてはどうか」との提案も出された。

ここで出された意見を踏まえ、9月以降に予定している次回の講義までに第5期東構塾のプログラムの骨子を固めるとしている。

第5期講座がスタート

『鉄骨精度測定指針』の改定点を解説

第5期講座が10月からスタート、11日、東京都中央区の組合会議室で第1回目の授業が行われた。

初めに、テーマを決めるために討議し、出席者から要望や意見を聴取。後日、提言を取りまとめ、カリキュラムを作成。次回からテーマごとにディスカッションを行っていく。

また、鉄骨業界の最新動向をテーマに講義し、今月発刊された『鉄骨精度測定指針（改定第7版）』の主な改定点を解説した。

羽石塾長は「大きな変更の一つは、従来適用外だった冷間成形角形鋼管に関する測定項目が追加されたこと。同製品が柱部材となった場合、大臣認定品としての寸法許容差が鉄骨製品に対する寸法許容差として適用できることを確認し、一部の測定項目が本指針に取り入れられた」と述べた。

東京鉄構関連 3 団体が箱根で研修旅行を開く — 各団体から計約 20 名が参加 —

当組合と鉄工建設業協同組合（理事長＝國谷七三夫・國谷製作所社長）、東京足立鉄骨工業会（会長＝金本茂・日伸鉄工建設社長）の東京鉄構関連 3 団体は 5 月 18、19 の両日、神奈川県足柄郡箱根湯本のホテル「南風荘」で 3 団体の組合員約 20 名を集め、研修旅行を開催した。

研修旅行は鉄構 3 団体の懇親を深めるとともに、陳情活動など事業における協力関係の構築を目的に、毎年、各

組合が持ち回りで幹事を務め開催しているもの。

今回の幹事を務めた当組合の飯田理事長は冒頭のあいさつで「われわれ 3 団体は 3 兄弟として情報交換をして互いに利益が出るような活動を今後も展開したい」と述べた。

今回は、研修事業は行われなかったものの、各団体の組合員は活発な情報交換を実施、ま

た、組合の枠組みを超えた事業活動を行いたいとの方針で合意。今後、具体化に向けた話し合いを行うとした。



地区会員名簿

東地区 (23 社) 地区長 (株)前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 那須ストラクチャー工業	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	三進建鉄 有限会社	R
2	株式会社 アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	中央ビルト工業 株式会社	R	19	株式会社 コイワ	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	鈴木鉄工建設 株式会社	R	20	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	有限会社 高市工業	R	21	株式会社 奥村鉄構	未
6	吉岡工業 株式会社	M	14	株式会社 角鹿鉄工	R	22	株式会社 矢萩鉄工	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 利根川鐵工所	R	23	有限会社 幸栄工業	未
8	富士工業 株式会社	M	16	林鉄工 株式会社	R			

中地区 (12 社) 地区長 (有) 金谷鉄工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工 株式会社	M	5	有限会社 金谷鉄工所	M	9	小久保鉄工 株式会社	R
2	松田鋼業 株式会社	M	6	井上鉄工 株式会社	M	10	有限会社 大橋鉄工所	未
3	東京建鉄 株式会社	M	7	株式会社 三侑鉄工	M	11	株式会社 帝都建工	未
4	株式会社 鎌建工業	M	8	有限会社 修和鉄工	R	12	株式会社 テッコー	未

西地区 (20 社) 地区長 (有) 坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	8	有限会社 坂爪建鉄工業	M	15	有限会社 山上建設工業	R
2	川岸工業 株式会社	H	9	有限会社 天野鉄工所	R	16	株式会社 小室鉄建	R
3	株式会社 矢嶋	H	10	株式会社 一本木鉄工	R	17	株式会社 高水鐵工	R
4	小島工業 株式会社	M	11	株式会社 酒多鉄工所	R	18	有限会社 藤本鉄工所	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	12	島崎工業 株式会社	R	19	有限会社 石川鉄工	R
6	井戸鉄建 株式会社	M	13	有限会社 中央製作所	R	20	株式会社 ヤマトミ	R
7	株式会社 かしや建設工業	M	14	株式会社 河村鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430 honbu@fujimikougyo.co.jp	03-3314-5818	石塚 勲 蒲生 紘一郎	代表取締役 開発部長	高圧ガス、溶材 機械、工具
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区早渕1-28-18	045-594-1923 fumio.hashimoto@amada.co.jp	045-591-9460	橋本 文夫	副ブロック長	パッド用プレート*
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業本部	103-0027	東京都中央区日本橋2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021 hirata,hajime@dai-do-life.co.jp	03-3667-8022	平田 肇	営業推進部長	生命保険 共済保険
会計	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610 ntk@viola.ocn.ne.jp	04-2949-2209	中村 弘田郎 中村 弘美	代表取締役 常務取締役	切り板 孔あけ
監査	ダイニツカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163 k-hujimoto@star.dainikka.co.jp	03-3552-3162	藤本 恵三	支店長	全構協指定塗料 錆止め塗料
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031 takahashi@kaken.net	03-3684-8042	高橋 亨	代表取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株) 南流山事業所	272-0163	千葉県流山市南流山3-10-7	04-7157-7735 t.konishi@sanko-techno.co.jp	04-7157-8835	小西 隆夫 中村 正孝	事業部長 係長	建築金物製造販売
	(株)昭和塗料商会 東京営業所	101-0051	東京都千代田区神田神保町2-48 3510ビルFA室	03-3265-8951 showa-toryo-t@k2.dion.ne.jp	03-3262-4570	伊東 勝美 渡辺 高紳	所長 課長	塗料販売
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817 seiwa@seiwa-web.net	03-3605-3521	星野 傳弘 北嶋 重司	代表取締役 専務取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
	大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501 sinagawa-masa@star.dnt.co.jp	03-5710-4520	藤城 圭 品川 雅紀	所長 主任	全構協指定塗料 錆止め塗料
	太陽日酸ガス&ウェルディング機 八王子支社	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801 Naoki.Miyasaka@tn-sanso.co.jp	0426-31-3808	乗川 英嗣 宮坂 直樹	支店長 係長	高圧ガス
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071 okabe@tokyo-dt.com	03-3356-9354	遠藤 裕二 岡部 直樹	代表取締役 課長	情報システム総合プランナー NTTコミュニケーションズ・加盟店
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231 tokoshi-odaka@sand.ocn.ne.jp	04-2998-0570	小高 進一 佐藤 庄悟	課長	ベースパック ハイベース
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352 noc-t@nomura-s.co.jp	042-378-0655	野村 俊明 小杉 勝	代表取締役 所長	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株) 神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424 f0441@furusato.co.jp	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811 maruwa@checkerplate.co.jp	047-304-0819	中畑 守弘 阿部 孝典	代表取締役 課長	鎚鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485 misuz-film-l@tokyo.email.ne.jp	03-3642-3265	飯島 隆典 佐藤 智輝	代表取締役 営業課長	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	有修溶工(株)	273-0018	千葉県船橋市栄町2-6-7 東京フック機軸機材センター内	047-433-2301 stud@yu-shu.co.jp	047-410-0575	浪花 俊勝 滝沢 健一	代表取締役 工事部長	スタッド溶接工事 材料販売

編集後記

減少を続ける日本の人口問題はさまざまな分野で困難な問題を引き起こし始めています。世代別人口分布が逆ピラミッド型となり、社会の仕組みを根本から変えていかなければならないでしょう。

年金問題、高齢者医療問題などはその典型ですが、産業構造も金融資本主義・グローバル経済主義から里山資本主義にソフトランディングしていくことが求められているのではないのでしょうか？

わが業界は、モノづくりの典型的な業界です。経済はモノづくりの産業が基本でなければなりません。し

かし現在の日本社会はモノを全く生まない（生産しない）IT産業が中心といってもよいかもしれません。

1次、2次産業が重視される産業構造に変えていく必要があります。そのためには私たちの業界が持続可能な体制をいま構築していくことが重要です。

(事務局長 加藤哲夫)